# MZ Platform Version 3.0 インストールガイド

独立行政法人 産業技術総合研究所

MZ プラットフォーム研究会

2013年6月28日

# 目次

1.	MZ Platformのインストールにあたって	2
2.	動作環境	4
3.	ソフトウェアのインストール	5
4.	Java環境の変更	10
5.	動作環境設定	11
6.	MZ Platformのライセンス	15
	6.1. ライセンス申請手順	15
	6.2. 旧バージョンのライセンス取り込み	20
	6.3. ライセンス管理についての注意点	22
	6.4. ライセンス関連のトラブル対応について	22
7.	MZ Platformの実行	24
8.	MZ Checkerについて	25

MZ Platform に関してご不明な点、ご質問等ございましたら、氏名、所属機関名称、住所、連絡先、 E-mailアドレスを明記の上、<u>mzsupport-ml@aist.go.jp</u>までご連絡ください。

### 1. MZ Platformのインストールにあたって

「MZ Platform Version 3.0インストールCD」からMZ Platformをインストールすると、MZ Platformの起動に必要なJava環境(Java SE Runtime Environment 7 Update 25 およびJava3D 1.5.2)が同時にインストールされます。初めてご使用になる場合を含めて特に問題がない限りインストールされた状態のまま使用されることを推奨しますが、既にインストール済みのJava環境をご使用になりたい場合や、新たなバージョンのJava環境が公開された場合等には、それらを使用することも可能です。それぞれの場合についてのインストールの手順を以下にまとめます。

#### (1) 初めてMZ Platformをインストールする場合

初めて MZ Platform をご使用になる場合にはインストールされた状態のまま使用されることをお勧めします。 次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール]→[6. MZ Platformのライセンス]

※別途インストールしたJava環境を使用される場合には、インストーラ画面に従って<u>MZ Platformをインスト</u> <u>ール</u>した後に<u>Java環境の変更</u>および<u>環境変数JAVA\_HOME の設定</u>を手作業で行う必要があります。次の 順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール]→[4. Java環境の変更]→[5. 動作環境設定]→[6. MZ Platformのライセンス]

### (2) 既に旧バージョンのMZ Platformをご利用の場合

バージョン 2.10 以前の MZ Platform をご利用の場合には、Java 環境が更新されておりますので、特に問題がない限りインストールされた状態のまま使用されることをお勧めします。

バージョン 2.2 から2.10までのMZ Platformをご利用で外部ライブラリ(データベースへの接続のための JDBCドライバ等)を導入している場合には、それらライブラリが新しいJava環境にコピーされます。独自に作 成したコンポーネントをご使用の場合には、コンポーネントのファイルをコピーする必要があります<sup>1</sup>(外部ラ イブラリ、コンポーネントファイルについてはMZ Platformインストール完了後の設定も可能です)。次の順 序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)<sup>3</sup>]

バージョン 2.1 以前のMZ Platformをご利用の場合で、これまでご使用のJava環境に外部ライブラリ(デー タベースへの接続のためのJDBCドライバ等)を導入している場合には、新しいJava環境にそれらをコピーす る必要があります<sup>2</sup>。また、独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、コンポーネントのファイルを

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 独自に作成されたコンポーネントの移行については、コピーが必要なファイル(jar ファイル、dll ファイル等)、コピー 先、各種設定等についてコンポーネント開発者または開発元にお問合せください。コンポーネントの登録等につい ては「新規コンポーネント作成手順」をご覧下さい。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> JRE 用ライブラリの移行については、そのライブラリを用いる各種マニュアルをご覧下さい。例えば、MySQL の JDBCドライバの移行については「工程管理システム導入マニュアル.pdf」等に記述されているドライバファイルの配

コピーする必要があります<sup>3</sup>(外部ライブラリ、コンポーネントファイルについてはMZ Platformインストール完 了後の設定も可能です)。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)<sup>3</sup>]

※旧バージョンのインストール CD でインストールした Java 環境や別途インストールした Java 環境をそのま ま使用される場合には、それぞれ次の手順で設定をお願い致します。

(a)バージョン 1.6 から2.10のインストールCDから導入したJava環境を使用される場合 インストーラ画面に従って<u>MZ Platformをインストール</u>した後に<u>Java環境の変更</u>を行う必要があります。 また、独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、新しいMZ Platformにそれらをコピーする必 要があります<sup>3</sup>。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2.動作環境]→[3.ソフトウェアのインストール]→[4. Java環境の変更]→[6. MZ Platformのライセン ス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)<sup>3</sup>]

(b) バージョン 1.5 以前のインストール CD から導入した Java 環境、別途インストールした Java 環境を使用 される場合

インストーラ画面に従って<u>MZ Platformをインストール</u>した後、<u>Java環境の変更</u>を行い、<u>環境変数</u> JAVA\_HOMEの設定</u>をご確認ください。また、独自にコンポーネントを作成し使用している場合には、コン ポーネントのファイルをコピーする必要があります。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、イン ストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール] →[4. Java環境の変更]→[5. 動作環境設定]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)<sup>3</sup>]

置場所を参考にしてください。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> 独自に作成されたコンポーネントの移行については、コピーが必要なファイル(jar ファイル、dll ファイル等)、コピー 先、各種設定等についてコンポーネント開発者または開発元にお問合せください。コンポーネントの登録等につい ては「新規コンポーネント作成手順」をご覧下さい。

# 2. 動作環境

# ■推奨環境

MZ Platform は以下の環境で動作します。

0S	Windows 2000/XP/Vista/7/8 (Windows 2000 Professional SP4 以上、
	Windows XP Professional SP2 以上推奨)、Linux⁴
CPU	Celeron 1.4GHz 以上(Pentium IV 1.8GHZ 以上推奨)
メモリ	384MB 以上(512MB 以上推奨)
HDD	最大で約 455MB 以上の空き容量
	(JRE 用 140MB、MZ Platform 用 315MB)
画面解像度	1024×768 以上推奨
グラフィックボード OpenGL 対応ボード	
	※3D 表示における注意点
	ハードウェアとの相性により、うまく起動できない場合や、画面が乱れ
	る場合があります。この場合、グラフィックハードウェアのハードウェア
	アクセラレータのレベルを変更することで解決する場合があります。
	それでも解決されない場合には、ハードウェア交換をご検討ください。
通信環境	ネットワークボード
周辺機器	CD-ROM ドライブ(インストール用)

■前提ソフトウェア

動作の前提となるソフトウェアは以下です。MZ PlatformインストールCDからはJava SE Runtime Environment 7 Update 25(以下では、JRE7u25と記述)とJava3D 1.5.2が導入されます。特に問題がない 限りインストールされたJava環境を使用されることを推奨しますが、既にインストール済みのJava環境を ご使用になりたい場合や、新たなバージョンのJava環境が公開された場合等には、それらを使用するこ とも可能です。(これらがPCIに導入されているかどうかの確認方法つきましては、本誌5ページ「■手順 1:環 境確認」に記載しております。)

Java 実行環境	J2RE 1.4.2_03(または J2SDK1.4.2_03)以降のバージョン
Java3D	Java3D 1.2.1_04, 1.3.2, または, 1.5.2

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> 本インストールガイドは、MZ Platform Windows 版についてのみインストール方法を説明しております。

### 3. ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのインストール手順を以下に示します。

#### ■手順1:環境確認

導入作業を開始する前に、導入環境のご確認を行ってください。②、③は本インストーラよりインストー ルされる Java 環境を使用しない場合に確認が必要です。

①導入するPC環境が本誌[2.動作環境]記載の推奨スペックを満たすこと

②Java 実行環境(J2RE1.4.2\_03 以降のバージョン)が導入されているかどうか

③Java3D(Java3D1.2.1\_04, 1.3.2, または, 1.5.2)が導入されているかどうか

2、3は以下の手順にてご確認いただけます。

・<u>別途インストールした場合, バージョン 1.5 以前のインストールCDからインストールした場合</u>

1)ご使用の OS が、Windows 2000/XP/Vista/7 の場合は、

「スタート」ー「設定」ー「コントロールパネル」を開く。

ご使用の OS が、Windows 8 の場合は、

「チャーム」(画面右側のメニュー)ー「設定」ー「コントロールパネル」を開く。

- 2)ご使用の OS が、Windows 2000 の場合は、「アプリケーションの追加と削除」を開く。 ご使用の OS が、Windows XP の場合は、「プログラムの追加と削除」を開く。 ご使用の OS が、Windows Vista/7/8 の場合は、「プログラム」-「プログラムのアンインストール」を開く。
- 3)「現在インストールされているプログラム」の一覧が表示されますので、画面をスクロールして探してみ て、「Java 2 Runtime Environment, SE (バージョン番号)」及び「Java 3D (バージョン番号) (OpenGL) Runtime」が表示されていれば導入されています。

・バージョン 1.6 から2.10までのインストールCDからインストールした場合

プラットフォームインストールフォルダ(通常 C:¥MZPlatform)に Java フォルダがあり、その中に j2re1.4.2\_03、jre1.6.0\_05、jre6、または、jre\*\_mz\*.\*(\*は jre または MZ Platform のバージョン)フォルダ があれば導入されています.

Java の導入につきましては、後ほど本誌 [2-3:セットアップタイプの選択] の箇所にてお選びいただけますので、こちらではご確認だけで結構です。

### ■手順2:インストールの実行

CD-R内に含まれているインストーラ(setup.exe)をダブルクリックし、インストーラを起動します。以降は、 インストーラの画面に従って作業を進めます。

😸 MZ Platform 3.0 - InstallS	hield Wizard
2	MZ Platform 3.0 用のInstallShield ウィザードへようこそ
	InstallShield(R) ウィザードは、ご使用のコンピュータへ MZ Platform 3.0 をインストールします。「次へ」をクリックして、続行し てください。
	警告: このプログラムは、著作権法および国際協定によって保護 されています。
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

[2-1:ユーザ情報の入力]

ユーザ名、所属を入力し、次へ進みます。

B MZ Platform 3.0 - InstallShield Wizard	x
ユーザー情報 情報を入力してください。	
ユーザー名(U):	
所属(0):	_
InstallShield	
	(N) > キャンセル

[2-2:インストール先フォルダの入力]

MZ Platform のインストール先フォルダを指定します。ディスクの空き容量などに問題がなければデフォルトのままで構いません。変更したい場合は、右上の[変更(<u>C</u>)…]ボタンを押して入力してください。

📸 MZ Plati	tform 3.0 - InstallShield Wizard	3
インストーノ このフォノ ンストーノ	ル先のフォルダ ルダにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダにイ ・ルする場合は、「変更」をクリックします。	
Þ	MZ Platform 3.0 のインストール先: C:¥MZPlatform¥ 変更(C)	
InstallShield -		
	< 戻る( <u>B</u> ) 次へ(N) > キャンセル	

# [2-3:セットアップタイプの選択]

インストールする PC の環境にあわせて、インストールのタイプを選択します。以下の説明を参考に、セットアップタイプを選択してください。

B MZ Platform 3.0 - InstallShield Wizard
セットアップ タイプ ご利用方法に合わせて最適なセットアップ タイプを選択してください。
セットアップ タイプを選択してください。
◎ <u>すべて(T)</u> MZ Platform、Java、Java3Dをインストールします。
◎ カスタム( <u>S</u> ) インストールするプログラム、ドキュメントを選択することができま す。
InstallShield

◇すべて

MZ PlatformおよびJava実行環境(Java3Dを含む)が導入されます。Java実行環境はMZ Platform のみが使用する環境としてMZ Platformのインストールフォルダ内にインストールされます。 <u>MZ Platformをご使用になる場合</u>には、このタイプをお勧めします。

◇カスタム

導入するソフトウェアを個別に選択し、必要なものだけを導入します。導入 PC のソフトウェア環境 やディスクの空き容量を考慮し、必要なものを選択してください。

[2-4:インストール対象の選択] ※2-3 にて「カスタム」セットアップを選択した場合のみ

導入 PC のソフトウェア環境やディスクの空き容量を考慮し、必要なもののみを選択してください。

B MZ Platform 3.0 - InstallShield Wizard	×
カスタム セットアップ インストールするプログラムの機能を選択してください。	
下のリストにあるアイコンをクリックして、機能のインストール方法を しています。 しないま実行環境 しています。 JRE7u25(jre1.7.0_25) JRE6u45(jre1.6.0_45) MZ Platform 実行環境 ドキュメント 開発キット	e変更してください。 機能の説明 Java Runtime Environmentと Java3D Runtime Environment をインストールします。 この機能をインストールするには、 OKB が必要です。1 / 4 のサブ機 能が選択されています。サブ機能 には、101MB が必要です。
インストール先: C:¥	
Instalishield ヘルプ( <u>H</u> ) ディスク( <u>U</u> ) < 戻る( <u>B</u> )	次へ(N) > キャンセル

①Java 実行環境(約140MB)

Java実行環境とJava3Dをインストールします。JRE7u25(Java3D1.5.2を含む)は必ずインストール されます。必要に応じて他のJava実行環境をインストールすることも可能です。このJava実行環境 はMZ Platformのみが使用する環境としてMZ Platformのインストールフォルダ内にインストールさ れます。

②MZ Platform-実行環境(約130MB)

MZ Platform の実行環境をインストールします。これは必須ですので対象外にはできません。 ③MZ Platformードキュメント(約180MB)

MZ Platform のドキュメントをインストールします。インストール対象外にすることが可能です。 ④MZ Platform - 開発キット(約 6MB)

MZ Platformのコンポーネント開発キットをインストールします。Javaプログラミングにて新たにコン ポーネントを作成するための開発環境です。インストール対象外にすることが可能です。 [2-5:インストール実行]

これまでに入力した情報が表示されますので、確認した上で次に進むとインストールが開始されます。

HZ Platform 3.0 - InstallShield Wizard
プログラムをインストールする準備ができました ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。
インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。「キャンセル」をク リックすると、ウィザードを終了します。 現在の設定:
セットアップ タイプ: すべて(T)
インストール先フォルダ: C:¥MZPlatform¥
ユーザー情報: 名前: 会社:
InstallShield < 戻る(B) 『インストール(I】 キャンセル

# [2-6:インストール完了]

下記のように完了メッセージが表示されるので、「完了」ボタンをクリックして、ソフトウェアのインストールは終了です。



### 4. Java環境の変更

バージョン 1.6 から2.10のインストールCDからインストールしたJava実行環境(JRE)をそのままご使用になる 場合、または、別途インストールしたJava実行環境をご使用になる場合、以下手順でJava環境の変更を行なっ てください。

スタートメニューから"JRE 変更ツール"を起動してください。

[スタートメニュー]-[プログラム] または[すべてのプログラム]-[MZ Platform 3.0]-[JRE変更ツール]

以下のコンソール画面が表示されます。

C:¥Windows¥system32¥cmd.exe	<u> </u>
■Java環境(JRE)変更ツール■	
MZ Platformで使用するJava環境(JRE)を	Ξ
Ver.3.0のインストールCDからインストールされたJRE7(JRE7u25)、	
Ver.3.0のインストールCDからインストールされたJRE6(JRE6u45)、 Ver.2.10のインストールCDからインストールされたJRE6(JRE6u37)	
Ver.2.9のインストールCDからインストールされたJRE6(JRE6u32)、	
Ver.2.8のインストールCDからインストールされたJRE6(JRE6u29)、 Ver.2.2から2.7までのインストールCDからインストールされたJRE6(JRE6u10からu25)	
Ver.2.1のインストールCDからインストールされたJRE6u5	
Ver.1.6または2.0のインストールCDからインストールされたJ2RE1.4.2_03、 晋培弥数 JAVA HOMEに設定さわているJRE	
に切り替えます。	
使田すろ.IRFの悉号を入力してください・	
[1] JRE7u25 (jre7_mz3.0フォルダ)	
L2」JRE6u45 (ire6_mz3.0フォルダ) [3] JRE6u37 (ire6_mz2_10フォルダ)	
[4] JRE6u32 (jre6_mz2.9フォルダ)	
[5] JRE6u29 (jre6_mz2.8フォルダ) [6] JRE6u10-u25 (jre6コャルダ)	
[7] JRE6u5 (jre1.6.0_05フォルダ)	
[8] J2RE1.4.2_03 (j2re1.4.2_03フォルダ) [9] しいゆ しいににおいますね クレス JPE	
ISJ JAVA_HUWELに設定されているJRE [0] キャンセル	
	-

本バージョンインストーラの「カスタム」セットアップでインストールしたJRE6u45(jre1.6.0\_45)を使用される場合には"2"を、バージョン 2.10 でインストールしたJRE6u37(jre1.6.0\_37)を使用される場合には"3"を、バージョン 2.9 でインストールしたJRE6u32(jre1.6.0\_32)を使用される場合には"4"を、バージョン 2.8 でインストールした JRE6u29(jre1.6.0\_29)を使用される場合には"5"を、バージョン 2.2 から 2.7 でインストールした JRE6u10(jre1.6.0\_10)からJRE6u25(jre1.6.0\_25)を使用される場合には"6"を、バージョン 2.1 でインストールした JRE6u5(jre1.6.0\_05)を使用される場合には"7"を、バージョン 2.0 または 1.6 でインストールした J2RE1.4.2\_03(j2re1.4.2\_03)を使用される場合には"8"を、次の[5. 動作環境設定]で示す環境変数 JAVA\_HOMEIに設定されているパスのJREを使用される場合には"9"を入力し[Enter]キーを押します。必要なexeファイルがコピーされて、Java環境変更の 作業が終了します。

## 5. 動作環境設定

別途インストールした Java 実行環境をご使用になる場合(バージョン 1.6 以降のインストール CD で Java 環境をインストールした場合を除く)のみ、環境変数の設定が必要です。MZ Platform は実行時に Java を使 用します。Java のインストールフォルダを取得するために環境変数 JAVA\_HOME を手作業で設定する必要 があります。

■Windows2000 の場合

①システムプロパティの表示

[コントロールパネル]ー[システム]でプロパティウィンドウが表示されますので、[システムのプロパ ティ]の[詳細]タブを選択し、中段の[環境変数(<u>E</u>)...]ボタンを押して設定画面を表示します。

୬ステムのプロパティ	環境変数 <u>? ×</u>
全般   ネットワーク ID   ハードウェア   ユーザー プロファイ ( 詳細 )	guest のユーザー環境変数(U)
パフォーマンス パフォーマンス オブションは、コンピュータの処理速度に影響するアプリケー ションのメモリの使い方を管理します。 パフォーマンス オブション(P)	変数 値 Iib C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥VC MSDevDir C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥Co path C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥Co TEMP C:¥Documents and Settings¥kenny¥Local Setti ▼
環境変数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。	新規(10) 「編集(E)」 削除(0)
環境変故( <u>E</u> )	[変数   値  ▲
記動/回復 記動/回復オブションは、記動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。	ANT_HOME C.¥apache-ant-1.5.2 ComSpec C.¥WINNT¥system32¥cmd.exe IMNINSTSRV C.¥IMNng_NT IMQCONFIGCL C.¥IMNng_NT¥instance¥DBCSHELP IMQCONFIGSRV C.¥IMNng_NT¥instance
	新規《W》編集(Q)削除(L)
	OK キャンセル

2環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、 システム全体に適用されます。JAVA\_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そ のユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

[新規(<u>W</u>)…]を選択し、環境変数 JAVA\_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0\_05)を標準でインストール した場合には、"C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0\_05"が設定値となります。変数名及び変数値をキ ーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。

新しいユーザー変数	<u>?</u> ×
変数名(N):	JAVA_HOME
変数値(⊻):	C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0_05
	OK キャンセル

■WindowsXP の場合

①システムプロパティの表示

[コントロールパネル]ー[パフォーマンスとメンテナンス]ー[システム](カテゴリ表示の場合)ある いは [コントロールパネル]ー[システム](クラシック表示の場合)でプロパティウィンドウが表示され ます。[システムのプロパティ]の[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(<u>N</u>)...]ボタンを押して設定画 面を表示します。

ͽ;ϝϧͷ;ϲͷ;;	環境変数		? 🗙
全般 コンピュータ名 ハードウェア 詳細設定 システムの復元 自動更新 リモート	- Administrator のユー	-ザー環境変数(U)	
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。	変数	値	~
- パフォーマンス 視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ 設定(3)	lib MSDevDir path TEMP TMP	C¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥VC. C¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥Co. C¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥Co. C¥Documents and Settings¥Administrator¥Lo. C¥Documents and Settings¥Administrator¥Lo.	
ユーザー ブロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定	ミリフテル環境変動(の)	新規(12) 編集(12) 削除(12)	»
設定(E)	家教	/ / 值	~
起動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報 設定(T)	ComSpec NUMBER_OF_PR OS Path PATHFXT	C#WINDOWS¥system32¥cmd.exe OC 1 Windows_NT C¥java¥jwsdp-1_0_01¥bin;C#WINDOWS¥syste. COM_EXF_RAT_CMD_VBS_VRF_JS_JSF_WSF_	-
環境変数(1) エラー報告(12)			
OK キャンセル 適用(A)		OK	セル

2環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、 システム全体に適用されます。JAVA\_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そ のユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA\_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0\_05)を標準でインストール した場合には、"C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0\_05"が設定値となります。変数名及び変数値をキ ーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。

新しいユーザー変数	? 🔀
対応形在よう (トロ)。	
发现:石( <u>N</u> /:	JAVA_HOME
変数値(⊻):	C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0_05
	OK キャンセル

■Windows Vista の場合

①システムのプロパティの表示

[コントロールパネル] - [システムとメンテナンス] - [システム] を表示します。左側タスクより[シ ステムの詳細設定]を選択し、確認画面が表示されるので[続行]を選択します。[システムのプロパ ティ]ウィンドウが表示されますので、[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(<u>N</u>)...]ボタンを押して設 定画面を表示します。

システムのプロパティ	環境変数		
コンピュータ名 ハートウェア 詳細設定 システムの保護 リモート	-00	のユーザー環境変数( <u>U</u> )	
Administrator としてロクォランスの空気は、これらのほとんどの変更はできません。	変数	値	
視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	TMP	%USERPROFILE%¥	AppData¥Local¥Temp
ユーザー プロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定		新規(N)	編集( <u>E)</u> 削除( <u>D</u> )
設定(E)	- システム環	環境変数( <u>S</u> )	
1354-10-727年	変数	値	
システム記動、システム障害、およびデバッグ情報	ComSp	Dec C:¥Windows¥syste	m32¥cmd.exe
	NUMB	ER OF PROG 2	
設定(」)	OS	Windows NT	<b>T</b>
環境変数(1)		新規( <u>W</u> )	編集(1) 肖ᆙ徐(上)
 OK   「キャンセル   適用(A)			OK キャンセル

2環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、 システム全体に適用されます。JAVA\_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そ のユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA\_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0\_05)を標準でインストール した場合には、"C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0\_05"が設定値となります。変数名及び変数値をキ ーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。

システム変数の編集	×
変数名( <u>N</u> ): 変数値( <u>V</u> ):	JAVA_HOME C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0_05
	OK キャンセル

■Windows 7/8 の場合

①システムのプロパティの表示

[コントロールパネル]ー[システムとセキュリティ]ー[システム] を表示します。左側タスクより[シス テムの詳細設定]を選択します。確認画面が表示された場合には、[続行]を選択します。[システム のプロパティ]ウィンドウが表示されますので、[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(<u>N</u>)…]ボタンを 押して設定画面を表示します。

システムのプロパティ	環境変数	×
コンピューター名 ハードプロア 詳細設定 シテムの保護 リモート	00 0a-#-\$	<sup>親</sup> 境変数( <u>U</u> )
	変数	値
視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ	TEMP	%USERPROFILE%¥AppData¥Local¥Temp
[[設定(S)]	ТМР	%USERPROFILE%¥AppData¥Local¥Temp
ユーザー ブロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定		新規( <u>N</u> ) 編集( <u>E</u> ) 削除( <u>D</u> )
	- システム環境変数( <u>S</u> )-	
	変数	值
起動と回復 シュコー (4745年) シュコー (86年) かいたいのがまれ	ComSpec	C:¥Windows¥system32¥cmd.exe
	Configsetroot	C:¥Windows¥ConfigSetRoot
		Windows NT
環境変数(1)		新規(业) 編集(① 削除(L)
OK   年やンセル   適用(A)		ОК ++>>セル

2環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、 システム全体に適用されます。JAVA\_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そ のユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA\_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0\_05)を標準でインストール した場合には、"C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0\_05"が設定値となります。変数名及び変数値をキ ーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。

システム変数の編集	×
変数名( <u>N</u> ):	JAVA_HOME
変数値(⊻):	C:¥Program Files¥Java¥jre1.6.0_05
	OK キャンセル

# 6. MZ Platformのライセンス

MZ Platformの使用にはライセンスの取得が必要です。はじめてMZ Platformを導入される場合は、6.1の手順によりライセンスを申請してください。旧バージョンを既にお使いの場合は、6.2の旧バージョンからの取込を行ってください。ただし、ライセンス申請ファイル生成後 30 日間は暫定ライセンスにて実行可能です。また、アプリケーションローダーはライセンスがなくても実行可能です。

※ライセンスの発行は、配付キット(インストール CD 等)に同封されている、「正式申込書」・「プログラム使用同 意書」をご返送いただき、当研究会にて確認がとれた後となります。(「正式申込書」・「プログラム使用同意書」は 両面印刷されています)

また、「正式申込書」・「プログラム使用同意書」は下記 URL からもダウンロードできます。 http://www.monozukuri.org/mzpf/pdf/douisho\_shinseisho.pdf

### 6.1. ライセンス申請手順

■手順1:アプリケーションビルダーの起動

MZ Platform のアプリケーションビルダーを起動します。アプリケーションビルダーはスタートメニューから 次のように起動できます。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと)

[スタートメニュー]ー[プログラム]または[すべてのプログラム]ー[MZ Platform 3.0]

-[アプリケーションビルダー]

MZ Platform が起動すると下のライセンス管理画面が表示されます。これはライセンス未登録の状態です。 [ライセンス申請ファイル生成]ボタンを押し、申請ファイル生成画面を表示します。



### ■手順2:ライセンス申請ファイルの生成

				. 0 <mark>. x</mark>
	C:) ▶ MZPlatform ▶ 3.0 ▶ etc ▶	▼ 4 etcの検索		م
整理 ▼ □ 開く 書き込む	新しいフォルダー		!≡ ▼	
🐌 MZPlatform	▲ 名前 <sup>▲</sup>	更新日時	種類	サイズ
<ul> <li>3.0</li> <li>AP_DATA</li> <li>AP_DATA_COMB</li> <li>components</li> </ul>	<ul> <li>derby</li> <li>exe</li> <li>font</li> <li>framework3d</li> </ul>	2011/11/28 13:50 2011/11/28 13:50 2011/11/28 13:50 2011/11/28 13:50	ファイル フォル… ファイル フォル… ファイル フォル… ファイル フォル…	
developer	MZChecker	2011/11/28 13:50 2011/11/28 13:50 2011/11/28 10:56	ファイル フォル ファイル フォル 構成設定	1 KB
li help	Anostsfile.ini java.policy	2011/11/28 10:56 2011/11/28 10:56 2011/11/28 14:02	構成設定 POLICY ファイル	1 KB 1 KB
🔒 lib	PFLicenseKey.mzl	2011/11/28 14:03 2011/11/28 14:03 2011/11/28 10:56	MZL ファイル 構成設定	1 KB 1 KB
PFLicenseKey.mzk 更 MZK ファイル	▼ ● 「 所日時: 2011/11/28 14:03 作成日時: 2011 サイズ: 214 バイト	./11/28 14:01		

ライセンス申請ファイル生成
以下をすべて入力してください。
あなたの名前
あなたの会社名
あなたのメールアドレス
ライセンス申請ファイル生成 閉じる

ライセンス申請に必要な情報を入力し、画面下にある[ライセンス申請ファイル生成]ボタンを押してください。以下の確認メッセージが表示され、ライセンス申請ファイルが以下のフォルダに生成されます。「了 解」ボタンを押してライセンス申請ファイルの生成が完了します。

(MZ Platformインストール先フォルダ)¥3.0¥etc¥PFLicenseKey.mzk



標準インストールの場合には、下図の様にCドライブの中の「MZPlatform」フォルダ→「3.0」フォルダ→ 「etc」フォルダ内に「PFLicenseKey.mzk」というファイル名でライセンス申請ファイルが生成されます(ライセンス申請ファイル生成後 30 日間は暫定ライセンスにて実行可能です)。

■手順3:ライセンス申請

電子メールにてライセンス申請ファイル「PFLicenseKey.mzk」を添付し、以下の送信先メールアドレス宛に 送信してください。メール本文には何も入力していただかなくて構いません。後日、ライセンスファイルを電 子メールにて添付し返送致します。

- 件名 : (お申し込み時にご登録いただいた電子メールアドレスをお書きください)
- 送信先 : <u>mzlicense-ml@aist.go.jp</u>
- 添付 : ライセンス申請ファイル

※複数のライセンスを申請する場合について

MZ プラットフォームは1枚の CD で組織内の複数の PC にインストールでき、利用者数に制限はありません が、ライセンスは、MZ プラットフォームをご利用になるPC 一台ごとに、生成し申請して頂くようになっており ます。他の PC に、新たに MZ プラットフォームをインストールする場合は、その都度各 PC においてライセ ンスの生成及び申請を行なってください。

ライセンス申請は一度に複数のライセンスをまとめて申請することができますが、その場合はライセンス 申請ファイル名が重ならないようにしてください。各PC毎にメールアドレスが指定できない場合などには、 会員あるいは担当者が一括してライセンス申請を行うことができます。この場合担当者は、各PCにおいて ライセンス申請ファイルを生成して、適当なディレクトリにPFLicenseKey.mzkの複製(コピー)を作成し、そ のファイル名(基本名)を、PFLicenseKeyPC001.mzkなどのように、各PCと対応するように変更し、変更さ れたファイルを取りまとめてmzlicense-ml@aist.go.jp 宛に送付してください。ただし、元のC:¥MZPlatform ¥3.0¥etc¥PFLicenseKey.mzkのファイル名は絶対に変更しないでください。

複数のライセンス申請ファイルを、件名(Subject)を申請書にある登録メールアドレス、本文は空として、 電子メールに添付しご送付ください。変更された基本名を持つ、ライセンスファイル(例えば、 PFLicenseKeyPC001\_mzI)を電子メールの添付ファイルで返送しますので、担当者は、各 PC にコピーして ください。このとき、ライセンスファイルの名前を変更する必要はありません。

尚、電子メールに添付しての送付等が困難な場合には、<u>mzsupport-ml@aist.go.jp</u> 宛にご相談ください。

■手順4:ライセンス登録

電子メールにてライセンスファイルをお受け取りになりましたら、そのファイルを導入する PC のどこかに保 管し、再度 MZ Platform のアプリケーションビルダーを起動してください。 暫定ライセンス有効期限内の場合には、以下の画面が表示されます。

	×
?	お使いいただける期間は残り30日間です。新規ライセンスの登録を行いますか?
	lまい(Y) いいえ(N)

[はい]ボタンを押し次に進みます。以下の画面が表示されます。

	ライセンス		x
	現在のライセンス	状况: 登録済	
	以下のユーザに	ライセンスされています。	
	名前 会社名 メールアドレス 有効期限 OS JavaVM	產総太郎 産業技術総合研究所 taro.sansou@aist.go.jp 2011/10/07 Windows 7, x86, 6.1 Java HotSpot(TM) Client VM, 20.4-b02	
クリックして 選択する	ライセンス申 → ライセンス: IBバージョン:	春ファイル生成 ライセンス申請ファイルを生成します。 ファイル取込 ライセンスファイルをインボートします。 ライセンス取込 旧バージョンのライセンスをインボートします。 関	103

暫定ライセンスが有効期限切れ場合には、以下の画面が表示されます。

	ライセンス	×
	現在のライセンス	R状況: <mark>有効期限切れ</mark>
	有効期限が切れ	ています。ライセンスの再申請を行なってください。
	名前	産総太郎
	会社名	産業技術総合研究所
	メールアドレス	taro.sansou@aist.go.jp
	有効期限	2011/10/07
	os	Windows 7, x86, 6.1
	JavaVM	Java HotSpot(TM) Client VM, 20.4-b02
	ライセンス申	
クリックして		
選択する	51072	ファイル収込 フイセンスファイルをインホートします。
		ライセンス取込 旧バージョンのライセンスをインポートします。
		閉じる

[ライセンスファイル取込]ボタンを押し、受け取ったライセンスファイルを指定します。正しいライセンスフ ァイルが取り込めた場合、以下のメッセージが表示されます。「了解」ボタンを押してライセンスのインポー トが完了します。次回以降のアプリケーションビルダー起動時には、ライセンスについての確認は表示さ れなくなります。以上にてインストール作業はすべて終了になります。



6.2. 旧バージョンのライセンス取り込み

旧バージョンをすでにお使いの場合、再度ライセンス申請を行う必要はありませんので、以下の手順に従っ てライセンスの取り込みを行ってください。

■手順1:MZ Platform の起動

MZ Platform のビルダーを起動します。MZ Platform のビルダーはスタートメニューから次のように起動で きます。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと)

[スタートメニュー]-[プログラム]または[すべてのプログラム]-[MZ Platform 3.0]

ー[アプリケーションビルダー]

MZ Platform が起動すると下のライセンス管理画面が表示されます。これはライセンス未登録の状態です。 [旧バージョンライセンス取込]ボタンを押します。

	ライセンス
	現在のライセンス状況: <mark>未登録</mark>
	登録されていません。ライセンスの申請を行なってください。
	ライセンス申諸ファイル生成 ライセンス申請ファイルを生成します。
クリックして	ライセンスファイル取込 ライセンスファイルをインボートします。
選択する	▶旧バージョンライセンス取込
	閉じる

■手順2:旧バージョン導入フォルダの指定

下の画面から旧バージョンの導入先フォルダを指定します。フォルダ名はキーボードから入力するか、[参照]ボタンを押して階層から選択します。

(Ver2.10のデフォルト導入先は"C:¥MZPlatform¥2.10"、その他のバージョンもデフォルトは "C:¥MZPlatform¥(バージョン番号)")

(※「etc」フォルダは含みませんのでご注意ください。)

🍰 旧バージョンライセンス取得	×
IBバージョンの導入フォルダを指定してください。 (例:"C:\MZPlatform\1.0")	参照
取込 キャンセル	

### ■手順3:ライセンス取り込みの指示

[取込]ボタンを押し、指定したフォルダからライセンス情報を取り込みます。このとき確認のためにライセンス情報(名前/会社名/メールアドレス/有効期限)が表示されますので、内容を確認します。正しい ライセンスが取り込めた場合、以下のメッセージが表示されます。「了解」ボタンを押してライセンスのイン ポートが完了します。次回以降のアプリケーションビルダー起動時には、ライセンスについての確認は表示されなくなります。



6.3. ライセンス管理についての注意点

1)ライセンス関連ファイルへの操作

生成されたライセンス申請ファイルや、取り込んだライセンスファイルに対して、次の操作を行わないよう に注意してください。

- ・ファイルを削除する
- ・etc フォルダ以外のフォルダにファイルを移動する
- ・ファイル名を変更する
- ・ファイルの内容を編集する
- 2)ライセンスとネットワーク接続

ライセンス申請ファイルの作成には、ネットワーク接続が有効になっている必要があります(実際に接続している必要はありません)。常時接続しているデスクトップ PC では問題が起きにくいですが、ノート PC でネットワーク接続の有効/無効を切り替えて使用される場合は注意が必要です。有線/無線など複数のネットワーク接続方法がある PC では、ライセンス申請時と MZ Platform 使用時の状態を同一にしてください。

- 6.4. ライセンス関連のトラブル対応について
  - Q. ライセンス申請ファイルの作成に失敗する
  - A. 以下のいずれかが考えられます。
    - ・ネットワークボードが取り付けられていない
      - → MZ Platform を動作させるには、ネットワークボードが装着されている必要があります。
    - ・(MZ Platformインストール先フォルダ)¥3.0¥etc¥PFLicenseKey.mzk というファイルが既に存在する
      → 該当ファイルを削除してください
  - Q. ライセンスファイルを取り込めない
  - A. 以下のいずれかが考えられます。
    - ・ライセンスファイルが壊れている
      - → お問い合わせください。
    - ・ライセンス申請ファイルが削除・移動・名称変更されている
      - → 移動した場合は、元にあったフォルダに戻してください。
        - 削除した場合は、再びライセンスを申請してください。
        - ファイル名を変更した場合は、元のファイル名に戻してください。
    - ・ライセンスファイルが別のライセンス申請ファイルに対するものである
      - → ライセンス申請ファイルで申請して送られてきたライセンスファイルをご利用ください。 他のユーザや PC で申請したライセンスは使用できません。
    - ・ライセンス申請ファイルが壊れている
      - → ライセンスを申請し直してください。
  - Q. 不正使用と表示される
  - A. 以下のいずれかが考えられます。
    - ・ライセンス申請ファイルが壊れている
      - → ライセンスを申請し直してください。

- ・ライセンスファイルが壊れている
  - → お問い合わせください。
- ・ライセンス申請ファイルを生成したパソコンとは別のパソコンで実行している
   → ライセンス申請ファイルを生成したパソコン上でのみ実行してください。
  - 別のパソコンで実行したい場合は、ライセンス申請をし直してください。
- ・ネットワークボードを交換した

→ ライセンス申請をし直してください。

- Q. 有効期限切れと表示される
- A. ライセンスを申請し直してください。

7. MZ Platformの実行

MZ Platform は以下の2つの機能を提供します。それぞれの機能についてツールが提供されており、以下のようにして起動します。

### 1)アプリケーションの構築

MZ Platform では、アプリケーションの構築はアプリケーションビルダー上で行います。スタートメニューか ら"アプリケーションビルダー"を起動してください。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照 のこと)

[スタートメニュー]ー[プログラム]または[すべてのプログラム]ー[MZ Platform 3.0]

ー[アプリケーションビルダー]

また、"アプリケーションビルダー(コンソール)"では、起動時にコンソール画面が表示されますので、実行 中のメッセージ出力などを確認することができます。また、構築したアプリケーションは、そのままアプリケ ーションビルダー上で実行することができます。

W MZ Platform アプリケーションビルダー	
ファイル 編集 アブリケーション オブション ヘルプ	□メント行検索 ▼
アブリケーション名称	
アプリケーション24称 「アプリケーション KEY:""	
┃ 「アイコン凡例」 ●アブリケーション □ 画面構成部品 ● ウィンドウ ● メニュー ● パネル ● 処理部品 (	■ 複合(画面構成)  🗐 複合(処理) 🛑 リモート
実行 実行(設定可) 画面編集 帳票編集 ロード 挿入 保存 上書き	保存 クリア 終了

2)アプリケーションの実行

MZ Platform では、アプリケーションの実行はアプリケーションローダーから行います。スタートメニューか ら"アプリケーションローダー"を起動してください。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照の こと)

[スタートメニュー]ー[プログラム] または[すべてのプログラム]ー[MZ Platform 3.0]

ー[アプリケーションローダー]

また、"アプリケーションローダー(コンソール)"では、起動時にコンソール画面が表示されますので、実行 中のメッセージ出力などを確認することができます。

## 8. MZ Checkerについて

MZ Platform 上で構築されたアプリケーションとして、MZ Checker がインストールされます。MZ Checker は、 「JAMA/JAPIA PDQ ガイドライン」に従い、CAD データの品質をチェックするツールです。MZ Checker の実行に は、スタートメニューから"MZ Checker"を起動してください。

[スタートメニュー]-[プログラム] または[すべてのプログラム]-[MZ Platform 3.0]-[MZ Checker]

MZ Checker の機能や操作方法については、MZ Checker のマニュアルをご覧ください。また、MZ Checker の 対象データサンプルとして、いくつかの CAD データを準備してありますのでご利用ください。

(MZ Platformインストール先フォルダ)¥3.0¥AP\_DATA¥MZChecker¥CAD\_DATA

### ■MZ Checker 画面イメージ

